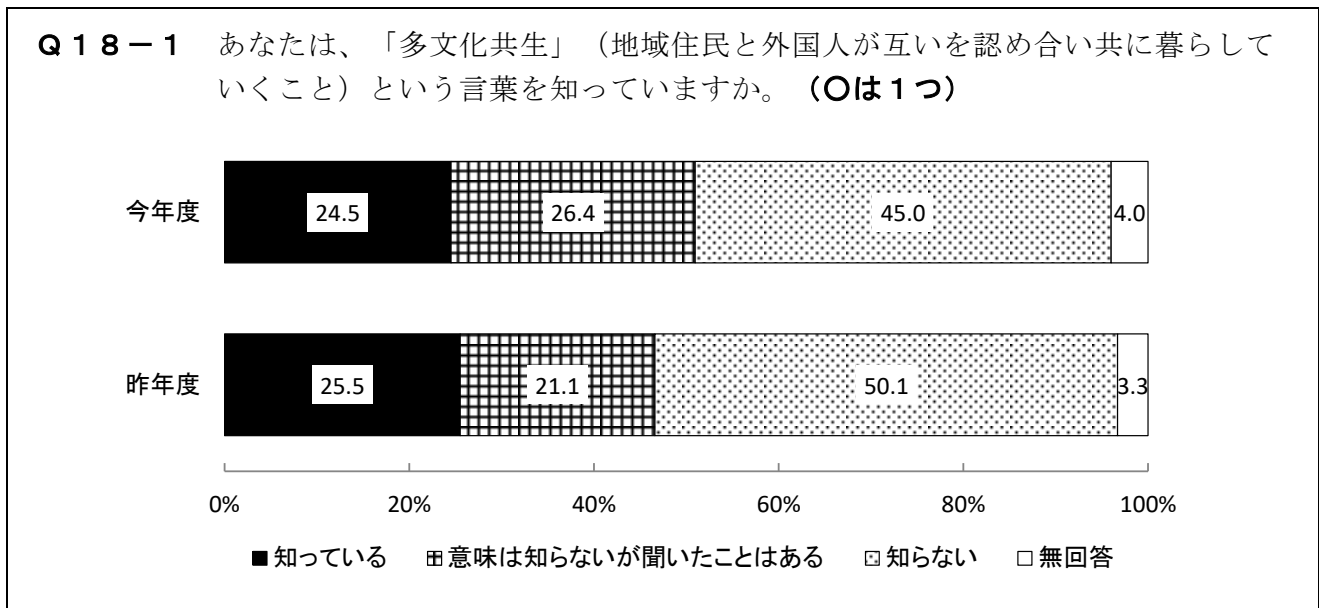


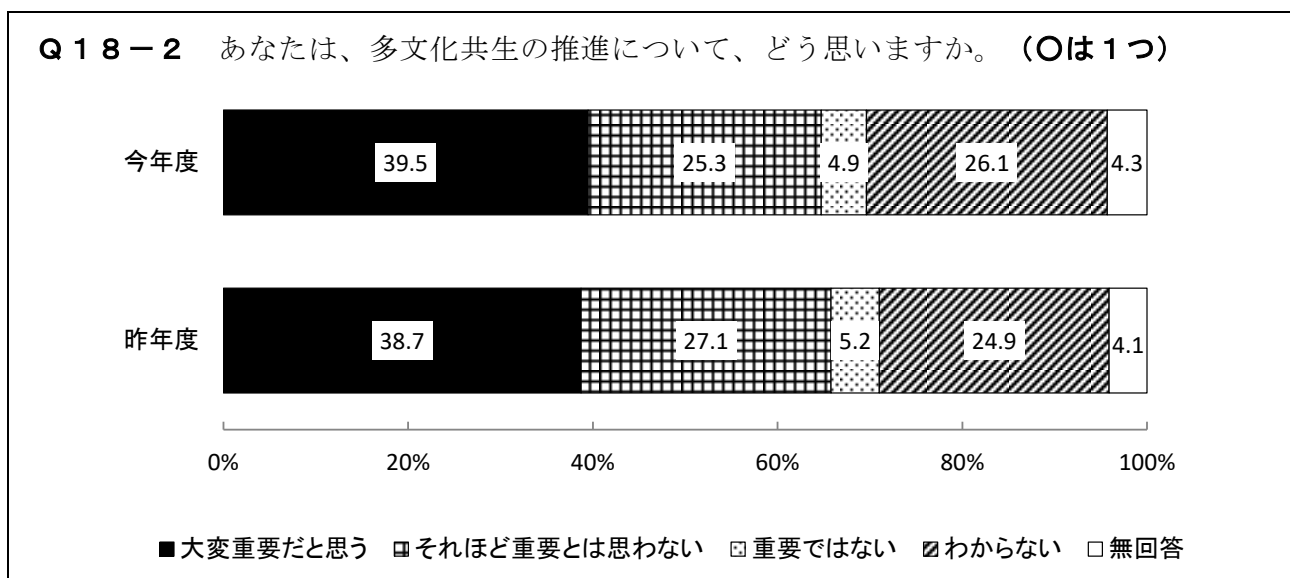
18. 多文化共生について

18-1. 多文化共生の認知度



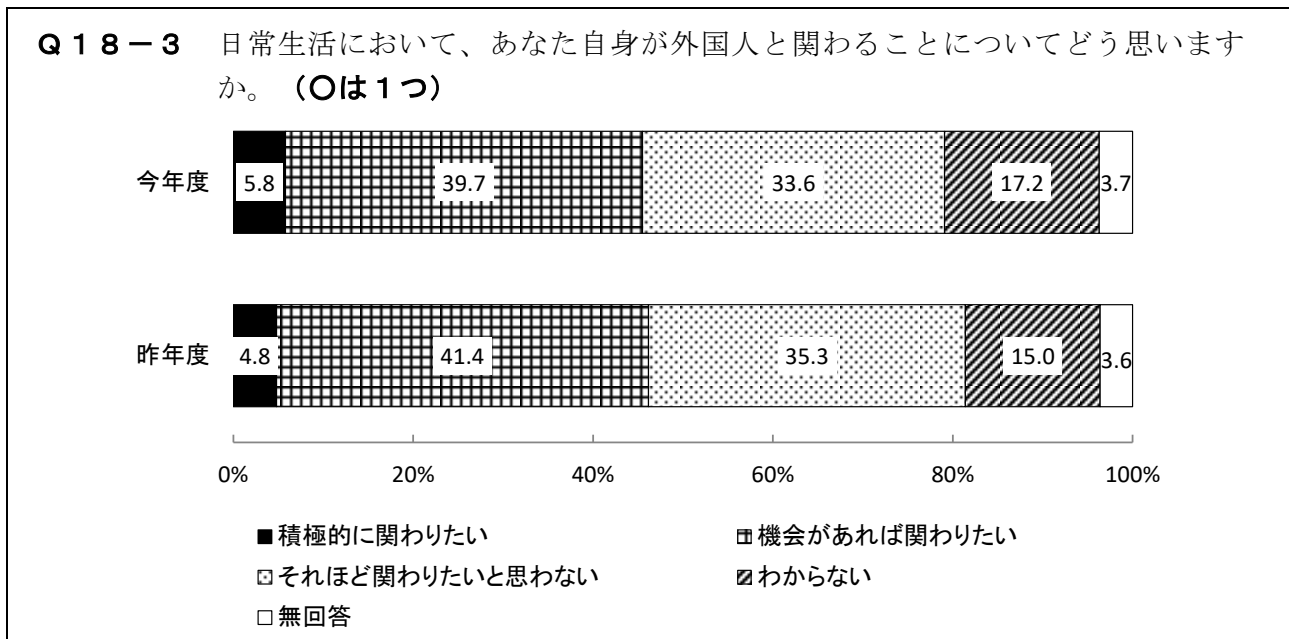
多文化共生の認知度について、「知らない」が45.0%で最も高く、次いで「意味は知らないが聞いたことはある」が26.4%、「知っている」が24.5%の順となっている。昨年度と比較すると、「知っている」は1.0ポイント、「知らない」は5.1ポイントそれぞれ低下しており、「意味は知らないが聞いたことはある」は5.3ポイント上昇している。

18-2. 多文化共生の推進



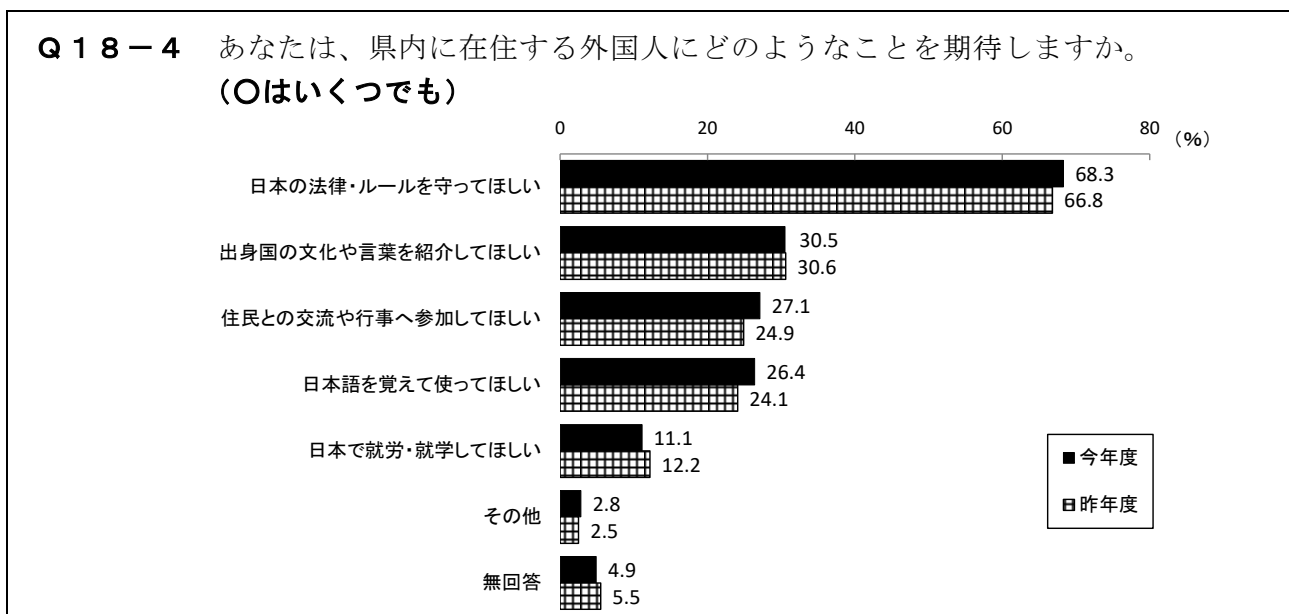
多文化共生の推進について、「大変重要だと思う」が39.5%で最も高く、次いで「わからない」が26.1%、「それほど重要とは思わない」が25.3%、「重要ではない」が4.9%の順となっている。昨年度と比較すると、「大変重要だと思う」が0.8ポイント上昇し、「それほど重要とは思わない」が1.8ポイント、「重要ではない」が0.3ポイントそれぞれ低下している。

18-3. 日常生活で外国人と関わることについて



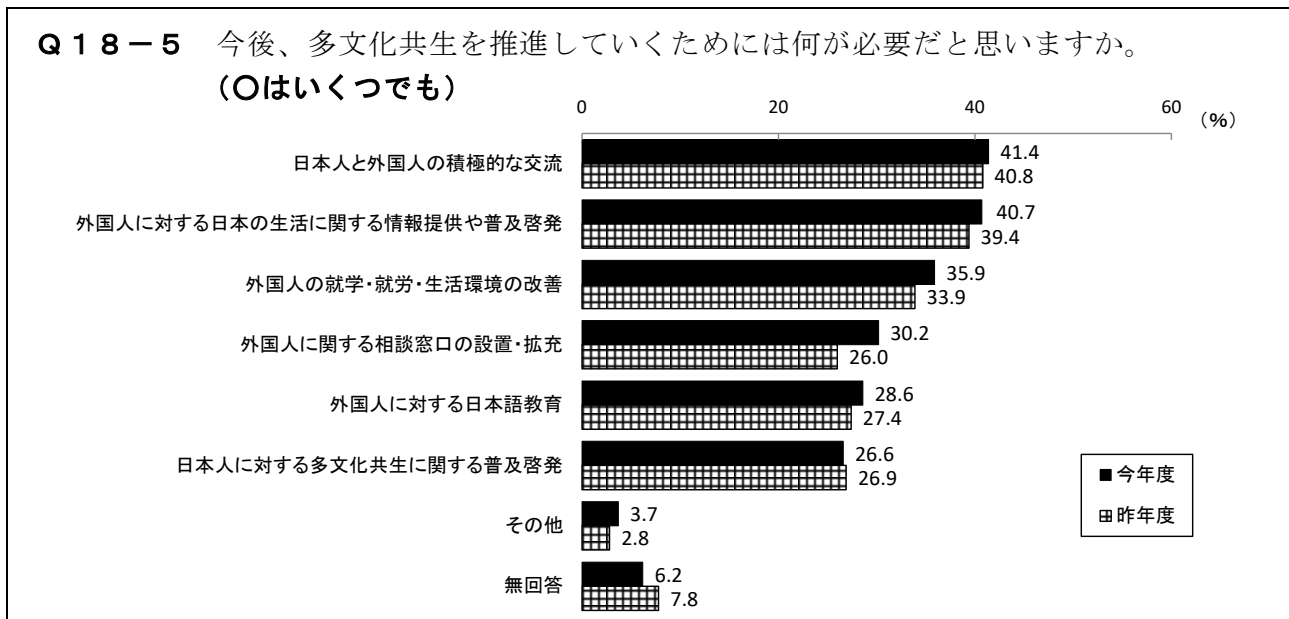
日常生活で外国人と関わることについて、「機会があれば関わりたい」が39.7%で最も高く、次いで「それほど関わりたいと思わない」が33.6%、「わからない」が17.2%、「積極的に関わりたい」が5.8%の順となっている。昨年度と比較すると、「積極的に関わりたい」が1.0ポイント上昇し、「機会があれば関わりたい」が1.7ポイント、「それほど関わりたいと思わない」が1.7ポイントそれぞれ低下している。

18-4. 県内在住の外国人へ期待すること



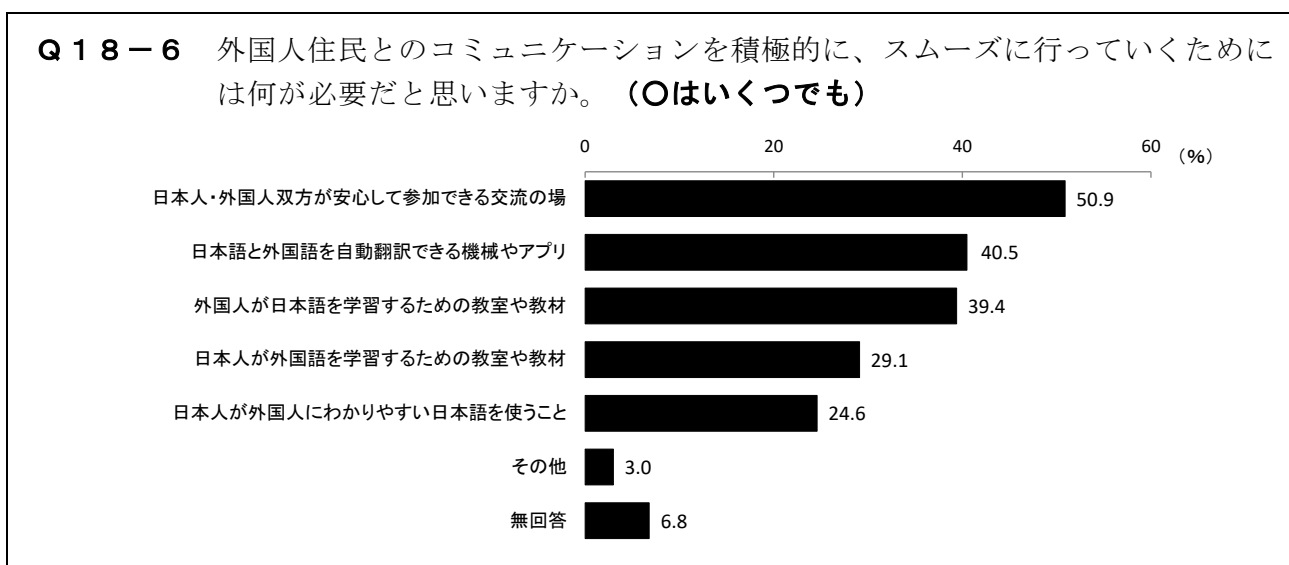
県内在住の外国人へ期待することについて、「日本の法律・ルールを守ってほしい」が68.3%で最も高く、次いで「出身国の文化や言葉を紹介してほしい」が30.5%、「住民との交流や行事へ参加してほしい」が27.1%、「日本語を覚えて使ってほしい」が26.4%、「日本で就労・就学してほしい」が11.1%の順となっている。昨年度と比較すると、「日本語を覚えて使ってほしい」が2.3ポイント、「住民との交流や行事へ参加してほしい」が2.2ポイントそれぞれ上昇している。

18-5. 多文化共生を推進していくために必要なこと



多文化共生を推進していくために必要なことについて、「日本人と外国人の積極的な交流」が41.4%で最も高く、次いで「外国人に対する日本の生活に関する情報提供や普及啓発」が40.7%、「外国人の就学・就労・生活環境の改善」が35.9%、「外国人に関する相談窓口の設置・拡充」が30.2%、「外国人に対する日本語教育」が28.6%、「日本人に対する多文化共生に関する普及啓発」が26.6%の順となっている。昨年度と比較すると、「外国人に関する相談窓口の設置・拡充」が4.2ポイント、「外国人の就学・就労・生活環境の改善」が2.0ポイントそれぞれ上昇している。

18-6. 外国人住民とのコミュニケーションを行っていくために必要なこと



外国人住民とのコミュニケーションを行っていくために必要なことについて、「日本人・外国人双方が安心して参加できる交流の場」が50.9%で最も高く、次いで「日本語と外国語を自動翻訳できる機械やアプリ」が40.5%、「外国人が日本語を学習するための教室や教材」が39.4%、「日本人が外国語を学習するための教室や教材」が29.1%、「日本人が外国人にわかりやすい日本語を使うこと」が24.6%の順となっている。